

「工芸基礎演習・工芸演習」の授業評価

美術教育講座・原田義明

1. 授業の概要と目的

本授業は、造形芸術コース及び学校教育実践コース（美術教育専修）の1回生を主対象とした授業（必修）であり、前学期に開講されている。授業は、工芸に関連した造形素材（金属，ガラス等）を使い，作品制作を通して素材や道具に対する基本的な知識や技法を身につけることを目的としている。

なお，本年度の受講生は15名（1回生14名，3回生1名）である。

〈到達目標〉

- (1) 工芸の造形素材，技法及び道具についての基本的な知識を身につけることができる。
- (2) 与えられた課題内容を理解し，それを作品制作に生かすことができる。
- (3) 素材の特性や技法が各自の制作意図に反映され，作品化できる。

2. 授業の内容

受講生は，殆どが1回生であり，工芸に関する知識や制作歴が少ないことを前提に，各素材ごとに課題を設定し，素材の特性を十分に生かした作品制作を目指した。

〈授業のスケジュール〉

- | | |
|----------|---|
| 第1回 | ガイダンス，工芸及びプロダクトデザインについての説明，課題Ⅰについての説明，ガラス工芸について |
| 第2回 | デザインスケッチ，デザイン決定，粘土によるマケット制作 |
| 第3回 | 原型制作 |
| 第4回 | 石膏取り |
| 第5回 | 粘土の取り出し，重量計算，乾燥，焼成 |
| 第6回 | 型の割出し，仕上げ |
| 第7回 | 最終仕上げ，作品完成，合評会 |
| 第8回 | 課題Ⅱ－1について説明，彫金の技法について，デザインスケッチ |
| 第9回 | デザイン決定，工具・材料の取り扱いについて，制作開始 |
| 第10回～11回 | 作品制作，完成 |

第12回 課題Ⅱ－2について説明，鋳金の技法について，デザインスケッチ，粘土による原型制作

第13回 粘土による原型制作，鋳型制作

第14回 鋳造作業，仕上げ

第15回 最終仕上げ，作品完成，合評会

3. 授業の工夫

工芸では，素材への理解や技法の修得だけでなく，計画的に作品制作に取り組むことも重要である。今回は，受講生が制作の大きな流れをイメージし計画的に制作を進められるよう，毎回授業の始めに作業工程を説明し，計画的に作業が行えるよう工夫した。

4. 授業改善のためのアンケート

授業の最終日にアンケート調査を実施した。問9までは，5段階評価で行い，①強く思う（非常に良い）②やや思う（良い）③どちらとも言えない（普通）④あまり思わない（あまり良くない）⑤全く思わない（良くない）とした。なお，問10の回答は，はい①いいえ⑤で答えることとし，問11～13は記述式の設問とした。回答者15名

5. アンケートの結果

- 問1. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
①11名 ②4名
- 問2. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。
①11名 ②3名 ③1名
- 問3. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。
①13名 ②2名
- 問4. 担当教員の熱意・工夫は感じられましたか。
①15名
- 問5. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。
①7名 ②7名 ③1名
- 問6. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。
①14名 ②1名

問7. この授業で、あなたのこの分野への関心は向上しましたか。

①12名 ②3名

問8. この授業により、自分の考え方が培われたり、得るところがありましたか。

①12名 ②3名

問9. 授業の中で質問や意見発表の機会は与えられましたか。

①11名 ②4名

問10. この授業のシラバスを読みましたか。

①11名 ⑤4名

※以下、問11～13の設問は、誤字・脱字などを除き受講生の記述をそのまま転記する。

問11. 実習室の施設・設備など受講環境について意見があれば、記述して下さい。

- 涼しい環境の中でできてよかった。
- 外が暑いので初めはうれしいのですが、クーラーがききすぎているかなあ、と思いました。あと、色々な道具や工具等使えてよかったです。欲を言えば、先生がいつも用意をしてくれているので、通常はこの部屋のどこに何があるのか、なおしていいのか迷うことがあったので、これから使用していくと思うので、知りたかったです。
- 室温が低かった。
- 荷物置き場があったのがよかったです。
- 荷物置き場が作業の邪魔を減らしてくれてよかったと思う。若干、冷房が効きすぎて寒い。
- エアコンが効いていて快適なもの、やや強めの設定が多く寒く感じる。
- 教室の空いている時間を教えてはくれたけど、どこかに紙にして貼ってほしい。

問11. この授業でよかったと思う点、印象に残った点を記述して下さい。

- 質問をした時に、その質問以上の答えが返ってきてとても参考になりました。
- 自由に制作できたので、ものづくりの楽しさを感じられた。
- 自分の手で物をつくることができ、楽しかった。時間が合えばまた受講したい。
- 今まで工芸をあまりしたことがなかったけれど、ガラスと金属を使って作品を作って色々学べてよかった。
- 新しい素材に触れられた点。先生に1の質問すると10の答えが返ってくるので、とても勉強になった。残ってでも作品に取り組もうと思えたのは、自分としてはすごいことだと思う。

○ 実演で見せてくれるところが、すごくよかったと思います。

○ 工芸の面白さを知る上で非常に良い機会となった。

○ ガラスや金属といった普段作れないようなものを作るところがよかった。

○ 自由な表現をさせて頂けた点。

○ 基本的な加工技術が幅広く学べて良かった。

○ 今まで触れたことのない素材を使って作品が作れたので良かった。他の人の作品を見る機会も与えられたので、自身の作品の浅さを感じた。外見に捉われすぎる自分に気付いた。先生が最後の授業で「工芸（品）は使っている人と共に成長する」という言葉は目からウロコでした。

○ 自分のしたいことができて、質問にも適切に答えてくれる、とてもよかったと思いました。

○ ガラスと金属の両方を体験できたこと。色々な技法を学べたこと。他の人の作品を見る機会があったこと。

○ 経験したことのない制作（ガラス、金属）ができたこと。

○ 一つ一つ丁寧に説明した上で、作業に入る事ができたので、テーマや目的を明確に持つことができた。

問13. この授業で良くなかったと思う点、改善すべき点を記述して下さい。

○ 冷房以外は特になし。

○ 始めに一気に説明してもらっても、その段階に行く頃には忘れてしまうので、後で個別にも教えてもらえるなら、始めの文章での説明は配るだけでもいいと思います。

○ もう少し鑑賞する時間がほしいと思った。

○ もう少し作業工程に自由度が欲しい。

6. まとめ

授業アンケートの結果からは、多くの受講生が未経験の素材や技法に意欲的に取り組み、「ものづくり」の楽しさや奥深さを体感したことが読み取れる。また、各課題ごとに設定した合評会前の鑑賞会は、自己作品を問い直す機会にもなり、合評会での作品発表が充実したものとなった。しかし、授業の工夫に関連して、毎回授業の冒頭で行った説明については、大部分の受講生から肯定的に受け入れられたが、一部受講生からは、制作進度に対応した説明を求められた。授業の流れの中で、必要に応じて個別指導と全体指導を心掛けたつもりであったが、次年度の課題としたい。